

## 鮮やかに夜空照らす先祖供養のあんどん山車

● 花巻市大迫町「あんどんまつり」



江戸時代に続いた大飢饉で餓死した人々を弔うために始まったとされる同まつり

200年の歴史を持つ、花巻市の指定無形民俗文化財「あんどんまつり」が8月14日と16日の2日間、同市大迫町で行われました。

山車は、同町内の4つの組の住民が障子紙に口ウで色を塗り、様々な絵柄を立体的に制作したもの。祭りの中日にはあんどんの変更作業が急ピッチで行われ、最終日には初日とは違う山車を楽しむことが出来ます。

4台の山車に灯りが点けられると、色とりどりの絵柄が幻想的に浮かび上がり町の夜空を彩りました。勇壮な囃子の音と共に町内を練り歩く姿に、詰めかけた大勢の来場者は魅了され、先祖供養の思いをはせました。

## 4地域から集結! 熱き戦い繰り広げる ● 農家組合対抗球技大会



1. 3塁ランナーを還すため力を入れボールを打つ選手 2. 審判の判定に会場中が息を飲むクロスプレー 3. 後衛のナイスレシーブで好プレーが続いた 4. ブロックをかわしアタックを決める選手

J Aは8月24日、農家組合対抗の球技大会を行いました。花巻市内の球場や体育館など4つの会場で野球とバレーボールの競技が展開されました。

大会は、組合員相互の交流と健康増進を図ることを目的としており、花巻、北上、西和賀、遠野の4地域から代表農家組合が集結。野球8チーム、バレー9チームで熱戦を繰り広げました。

高橋専太郎組合長が、「農家組合とJ Aが一体となり活動を進めていこう。今日は全力プレーで頑張ってほしい」と激励し、大会がスタート。炎天下の中行われた野球大会では、選手らは照りつける太陽の熱さや流れる汗も気にする事なく、白球を追い全力でプレー。見ごたえのある試合展開に、応援にかけつけた地域住民や支店職員から声援が沸き上がり

- ました。
- バレーボール大会は、どの試合も点を取り合う接戦が続きました。また、チーム内だけでなく、他チームとの交流も活発に行われ、息詰まる試合展開の後には和気あいあいと地域間交流を楽しみました。
- 主な結果は次の通りです。
- 【野球大会】
- ▼優勝 亀ヶ森3・6区農家組合(大迫町支店)
  - ▼準優勝 達曾部二区農家組合(宮守支店)
  - ▼3位 上藤根農家組合(和賀町支店)
  - ▼3位 東十二丁目農家組合(矢沢支店)
- 【バレーボール大会】
- ▼優勝 川目農家組合(横川目支店)
  - ▼準優勝 沢沢農家組合(沢内支店)
  - ▼3位 土淵一区農家組合(遠野支店)
  - ▼3位 二枚橋農家組合(湯本支店)

## 更なる信頼の獲得を目指して

● 西和賀花卉(かき)生産組合「リンドウ出荷検査」



西和賀オリジナル品種「雪の舞」を検査する岩井さんら組合員

J A西和賀花卉生産組合は、リンドウの県内有数産地として、市場や消費者からの更なる信頼の獲得に向け、出荷前に最終品質検査を行っています。

検査は西和賀地域営農センター農産物集出荷場で行われます。同組合員が持ち回りで検査員を担当しており、相互研鑽や良品質な出荷を行う意識の向上が図られています。

8月18日に検査を担当した岩井千代美さん(78)は「あなたの一箱がみんなの価格を決定する。というスローガンを掲げ生産している。検査員を担当する事は他の生産者の出荷物を見る機会となり、良品生産に対する意識が更に高まった」と語りました。

西和賀町は昼夜の温度差が大きく涼やかな気候の為、花色が濃く鮮やかに発色し、草姿がよく長く飾れると市場からも高い評価を得ています。

## 震災前と同じ8月開催を復活 ● 夏祭り「第26回釜石よいさ」



多くの市民と共にJA職員が参加し、復興途上のまちに踊りの輪を広げました

釜石市の夏祭り「第26回釜石よいさ」が8月9日、同市大町で行われました。

東日本大震災による中断から復活し2年目の今回は昨年の2倍近い約1,400人が踊りに参加。J Aからも釜石・鶴住居・大槌・宮守の各支店の役員ら約30人が参加。「よいさ」独特の飛び跳ねる元気な踊りを披露。雨の中、「さーさ、よいやっさ」の掛け声で震災から立ち上がるという市民の意気込みが一つになりました。

今年から笛や太鼓のお囃子隊も復活。約40人の力強い生の演奏が町に響くと、会場周辺を埋めた約5,000人の観衆から拍手喝さいが沸き上がりました。

## 廃油使ってECOキャンドル

● 北上地域「生活文化活動教室」



吉田さん(左)に飾り付けのコツを教わる参加者

J Aの文化活動講習会の「ECOコース」が8月22日、J A北上支店敷地内にある来夢で行われました。

同講習会は、くらしの活動の一環として料理や手芸、園芸など幅広い項目で行っています。3カ月半年のコース制で開催する事でJ Aを拠点とした仲間作りの場にもなっています。

同日は5名が参加し、廃油を使用したキャンドル作りに挑戦。女性部員の藤根悦子さんと吉田昌子さんから作り方の指導を受けながら、好みの数色で廃油を色付けし、彩り鮮やかなオリジナルキャンドルを作成しました。

藤根さんは「身近なものを再利用する楽しみを知ってほしい。仲間との共同作業や会話から新たなアイデアが生まれる。皆さんにはこのような場に積極的に参加し仲間の輪を広げてほしい」と同講習会の魅力を語りました。